営　農　情　報

平成 30 年 1 月

佐々木信行さんの牛が最優秀賞

第8回いわて南牛枝肉研究会

ＪＡいわて平泉は12月5日、第8回いわて南牛枝肉研究会を東京食肉市場㈱で開きました。厳選された雌牛、去勢合わせて40頭が出品され、最優秀賞に佐々木信行さん（花泉）の去勢牛が輝きました。佐々木さんの出品牛の単価は3732円で、同枝肉研究会において歴代最高値となりました。全体の上物率は97．5%。平均販売金額は前回より7万3506円高い142万1260円となりいわて南牛のレベルの高さをうかがわせました。

その他の入賞者は次の通り。（敬称略）▽優秀賞＝小山平治、千葉幹雄（藤沢）、熊谷活宏（室根）▽優良賞＝高泉茂美、菅原和久、皆川明文（花泉）

枝肉研究会へ出発するいわて南牛

イチゴ需要期に向け意識統一

JAいちご生産部会

ＪＡいちご生産部会は12月11日、需要期を前に出荷規格目揃え会を開き、生産者など約30人が参加。盛岡中央卸売市場・丸モ盛岡中央青果の齊藤隆二課長から箱詰めや粒の大きさ、色づき具合など出荷規格を確認して良質なイチゴ出荷に向け意識統一を図りました。佐藤正弘部会長は「産地としての責任を持って収穫・出荷に取り組んでいく」と意気込みました。同部会では「やよいひめ」「さちのか」「とちおとめ」の3種類を栽培して県内に流通。6月まで出荷を予定しています。

出荷規格の確認をする生産者

生産資材ひろば

土づくりが決める品質と収量

農業生産にとって土は大事な要素の一つです。土の良し悪しが農作物の品質や収量に大きく影響します。まずは圃場の土の状態を把握し、良い土づくりを行いましょう。

1. 土づくりの必要性

豊かな収穫を得るには良い土づくりが必要です。良い土とは作物ごとに異なりますが、一般的には、①十分に根が張れる ②通気・排水性がよい ③水持ちがよく、肥料をよく保つ ④適正なpH値 ⑤微生物が多い ⑥腐植に富む ⑦異物の混入が少ないなどといわれています。

2. 土づくりの方法

(1) 土壌分析を行い、土壌中の栄養分量を把握。作物別栽培暦などを参考に不足している成分の肥料を施用し補います。

(2) 土壌分析結果に基づき作物に合わせたpH調整をします。酸性土壌は石灰資材で、アルカリ性土壌は、硫黄華やピートモス、鹿沼土の細粒を施すと中和できます。

(3) 水はけ・通気性が良い土壌は、有機物の施用によってつくられます。主な有機物資材は、ナタネ粕や大豆粕、堆肥ですが、特に堆肥は毎年施用しましょう。

3. 土壌病害虫の防除

土壌中の病原菌や線虫など害虫による被害は特に、連作圃場で発生しやすいので、土壌消毒で病原菌や害虫の密度を下げる必要があります。主な方法は①土壌還元消毒法②蒸気・熱水消毒③土壌消毒剤の使用があります。

土壌診断、土壌改良資材につきましてはＪＡ各営農経済センターにお問い合わせください。